

1 題材名 安全で快適な、よりよい住まい方の工夫

2 目標

- 室内を安全で快適な状態にする方法を考えようとしている。(生活や技術への関心・意欲・態度)
- 安全で快適な、よりよい住まい方を工夫することができる。……(生活を工夫し創造する能力)
- 室内を安全で快適な状態に保つ方法を理解することができる。……(生活や技術についての知識・理解)

3 題材について

(1) 教材観

学習指導要領解説技術・家庭編に「家族が健康で快適に住まうためには、室内を安全で衛生的な状態にすることが大切であり、室内環境を整えることの必要性に気付かせるとともに、室内の空気調節、通風、換気、騒音防止、室内の事故の防ぎ方や室内の整備について具体的な方法を理解し、実践できるようにする」とある。生徒にとって住まいに関する学習は、家の形、築年数、立地条件等、物理的な制約が大きいという意識が強く、学習したことを生活に生かそうとする意識が低い題材のひとつである。しかし、「衣食住」というように、「住む」ことは、服を着たり食べ物を食べたりにすることと同様に、毎日当たり前のようにすることの一つである。いつまでも家族まかせではなく、自分にもできることを見付け、実践することが大切であると考え、この題材を設定した。

(2) 生徒の実態

第3学年にアンケート調査を行ったところ、「家の中で大きなけが(病院に受診するほどのけが)をしたことがある」と答えた生徒の割合は38.4%、「家の中で小さなけがをしたことがある」と答えた生徒の割合は83.0%だった。家の中でけがをしたことがあると答えた生徒が多いにもかかわらず、「家の中で危険だと思う場所はありますか」という問いに対して「はい」と答えた生徒の割合は50.3%の生徒しかいなかった。「住まいの安全を考える本」によると、「死亡事故1件の裏に19万件的軽い事故」とある。死亡事故1件の裏には膨大な数の死に至らない事故が隠れているということに気付いている生徒は非常に少ない。

(3) 指導観

本題材では、家の形状等にかかわらず「住まいの中で起こっていること」を取り上げ、実物を提示しながら自分にできることを考えさせていく学習を展開していく。住まいに関する学習を、生徒が生活に生かそうと考えるようになるためには、題材が「身近なもの」で、「誰にでも起こりうる、ありうること」である必要がある。また、ほこりや床にこびりついてしまった汚れを拡大し、視覚的にとらえたり、家の中で起こる危険なことを絵本を使って見つけ出したりすることで、住まいの問題を自分の問題としてとらえられるようにする。また、授業の最後に必ず自分の住まいを改善する方法を記述させるが、ここでは「どこが」「どのような状態だから」「どう改善できるか」という視点で書かせていきたい。

4 指導と評価計画(7時間扱い)

時	学習活動	評価規準	関	創	技	知
1	住まいのはたらきを学習しよう	室内環境を整えることの必要性に気づき、安全で快適な室内環境の整備に関する具体的な方法を理解している。				○
2	私を不快にさせる○○○ ～健康に住むために～	室内を衛生的に保つために、自分でできることを考えている。	○	○		
3	私は○○○研究者	健康に害のあるものを知り、それらを防ぐ方法を調べ、まとめている。		○		
4 (本時)	ヒヤリハットさんちへいってみよう ～家の中に潜む危険を探しだそう～	家庭内で起きる事故の種類とその原因を知り、防ぎ方や安全な住まい方を考え、工夫している。		○		
5	防災・防犯に優れた住まい方を考えよう	防災・防犯に優れた住まい方について理解している。				○

6	おうち改善計画	今までの学習を基に衛生面、安全面のいずれかにおいて、室内の改善計画を工夫しようとしている。	○	○		
7						

5 本時の指導

(1) 目標

- 絵本「ヒヤリハットさんちへいってみよう」を見て、家の中で起こりうる事故を探す活動を通して、自分の家の危険箇所を想定し、安全に住まうための改善方法を考えることができる。

(2) 準備・資料

アンケート結果、ワークシート、絵本「ヒヤリハットさんちへいってみよう」

★CからBへのステップアップのための手立て

☆BからAへのステップアップのための手立て

(3) 展開

学 習 活 動 ・ 内 容	評価規準を達成させるための手立て・評価
<p>1 アンケートの結果を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・軽傷の家庭内事故 ・重傷の家庭内事故</li> <li>・事故を起こしやすい年代</li> <li>・事故を起こした場所 ・事故の内容</li> </ul> <p>2 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ヒヤリハットさんちへいってみよう ～家の中に潜む危険を探しだそう～</p> </div> <p>3 絵「ヒヤリハットさんの家」を見て、家の中の危険な場所を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「お正月」の絵</li> <li>・「運動会の朝」の絵</li> </ul> <p>①7分間、絵の中で事故になりそうな場所を探す。(グループ活動)</p> <p>②事故の種類を分類する。</p> <p>4 事故の種類と特徴、防ぐ方法をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・落下型 ・接触型 ・危険物型</li> </ul> <p>5 自分の家の危険箇所を考え、改善する方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに記入する。</li> <li>・グループ内で発表する。</li> <li>・他の生徒の良い意見を取り入れて、改善方法を再検討する。</li> </ul>	<p>・内容が自分たちのアンケート結果であることで、事故は自分たちの身の周りで起こることであると感じさせる。</p> <p>・事前アンケートの結果から、幼児や高齢者に事故が多いことを踏まえさせた上で、絵の中の危険な場所を探すよう指示する。</p> <p>・ワークシートには、グループの全員が互いに分かるよう、「どこで」「誰が」「どのように危険か」を書くよう助言する。</p> <p>・分類した事故の種類を表にまとめることで、事故が起こる原因とそれを防ぐ方法を考える手がかりとする。</p> <p>評価の観点(生活を工夫し創造する能力)</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分の家の危険箇所を想定し、安全に住まう方法や改善方法を考え、工夫している。 (ワークシート、発表)</p> <p>・改善する場所がないという生徒には、改善しなくていい状態になっているのは、どのような工夫や努力があるからかを考えさせ、ワークシートに記入させる。</p> <p>・「家を建て替える」「改築する」など、現在の自分の力ではどうすることもできないことを書いている生徒には、まとめた事故の種類と特徴、防ぐ方法を見直すよう助言する。</p> <p>★改善する場所が思いつかない生徒には、自分の部屋や、自分の部屋への通路等、普段よく行き来する場所の名前を挙げ、考えるよう助言する。</p> <p>☆単純な改善方法しか記入していない生徒には、家や部屋の現状を書かせ、その現状に対して自分ができることを考えるよう助言する。</p>

参考文献

- ・ヒヤリハットさんちへいってみよう (株) ミサワホーム総合研究所
- ・住まいの安全を考える本 (株) ミサワホーム総合研究所